

校内研究会 11月27日

低学年分科会授業提案

第1学年 道徳 主題名「よいと思うことを進んで行く」 1-(3) 善悪の判断・勇気

資料名 よりみち (文溪堂 22年度版)

指導者 本橋 教子

授業の流れ

- 1 廊下を走っている人やポイ捨てしている人を見た経験について話し合う。
- 2 「よりみち」を読んで話し合う。
- 3 自分たちのことについて考える。



協議会

<分科会提案>

ねらいとする価値にせまるために、児童の考えを高めるために、板書や掲示資料を工夫した。また、道徳的実践意欲を高めるために児童が頑張れた経験を聞き合う活動を取り入れた。

<自評>

(1年1組)

- ・もう少し揺さぶりがかった。
- ・展開の読み取りに時間がかかり、振り返りでは半分ぐらいの児童の話を聞いたところで授業を終えることが多い。
- ・普段手を挙げない児童、挙げて最後まできちんと話せない児童が、今日は手を挙げ、発言もきちんとできていた。

(1年2組)

- ・「正しいことを正しいと言うべき」という意見はすぐ出た。しかし、言いたいけど言えないという葛藤を引き出すのに苦労した。

<協議>

- ・登場人物の顔のアップを、実物投影機を使って映し出したのは、登場人物の心情を考える上で効果的だった。
- ・発問がわかりやすく、話がよく聞き取れていた。
- ・教師のしっかりとした受け止めが、活発な発言につながっていたと思う。
- ・挿絵がこれほど重要だということに気付かされた。

指導・助言

講師 朝倉 喩美子 先生

<道徳の時間について>

- ・「そうは言ってもなかなかできない自分を見つめる時間」であり、なぜ自分はできないのか、どうして主人公はできるのかを、子供たちと一緒に考える時間である。
- ・価値を指導者としてどう捉えるのかを明確に持って指導をすることが大切である。
- ・道徳の時間に「正解」はない。「どうなのかな。」と考え、友達の意見を聞き、また考える。そのことが「正解」とも言える。

<授業について>

- ・導入が長かった。ここを縮めることで、他の活動ができた。
- ・資料提示が素晴らしい。しっかり頭に入る範読であった。
- ・全体的に価値に関わる発問が多く、高学年向きの授業であった。低学年の場合は、すっきりはつきりした授業展開がよい。「みんながそんな気分になっちゃう。」というような授業がよい。
- ・「みさきちゃんが『より道してはいけないよ』と言ったとき、他にも何か言っていると思うよ。やっごらん。」などと問いかけ、実際に児童にやらせてみるという展開も考えられる。

<その他>

- ・「心あかるく」「心しなやかに」「心たくましく」は、ぜひ家庭でも読んでほしい。